



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/26 (月)	+ 100	+ 7,100	+ 7,200	国庫短期証券発行償還 (3M) 各種財政資金の支払い	国債補充供給 + 15,300 CP等買入 ▲ 100		米：耐久財受注 (7月)
8/27 (火)	+ 100	+ 2,000	+ 2,100				
8/28 (水)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000	流動性供給			
8/29 (木)	+ 500	+ 1,000	+ 1,500				米：GDP (2Q) 米：卸売在庫 (7月)
8/30 (金)	+ 200	+ 6,500	+ 6,700	各種交付金			日：有効求人倍率 (7月) 日：外国為替平衡操作の実施状況 (7/30~8/28) 欧：ユーロ圏CPI (8月) 米：個人消費支出価格指数 (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,100億円増加の549兆4,900億円から始まった。その後、国債発行、国債償還等の要因により、23日は550兆5,300億円 (速報) となり越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3M物が主に0.227%~0.390%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、海外では29日に米国GDP (2Q)、30日にユーロ圏CPI (8月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.22 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は、週央まで+0.22%~+0.25%のレンジで出合いがみられた。22日は一時+0.20%を下回る水準まで低下し、短国の発行があった週末は+0.20%~+0.23%で推移した。

SC取引は2年450~462回債、5年149~171回債、10年350~375回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,300億円で、週間償還額の9,400億円を上回った。発行残高は、先週末時点の24兆1,401億円から8月22日時点で24兆8,037億円に増加した。発行市場は小売業、機械、電気機器、鉄鋼などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%超から0.30%台後半での出合いとなった。

来週の償還額は、約2兆7,200億円となっている。発行市場は、月末週で発行が多くなり、マーケットは活況となると思われる。発行レートは、1M物では0.25%超での出合い、3M超の案件については0.30%台前半~0.30%台後半での出合いが散見されるであろう。

<TDB>

19日Y (1251回債) の入札は、最高落札利回り0.2536% (前回債0.1793%)、平均落札利回り0.2255% (前回債0.1672%) となった。

23日の3M (1252回債) の入札は、最高落札利回り0.1043% (前回債0.1183%)、平均落札利回り0.0974% (前回債0.1119%) となった。

来週の入札は、30日に3Mが予定されている。